

中国研究の現在

— 研究手法から実証研究へ —

激動する中国に対して、われわれは如何なる視点を持ち、どのような研究手法を通じて、中国という研究対象を客観的に捉えるのか？中国地方民主・地方ガバナンス研究の権威である陳剩勇教授(浙江工商大学)、郎友興教授(浙江大学)を招聘し、研究手法から実証研究にわたって、中国研究の最前線についてお話しいただきます。

◆開催時間:2009年10月29日(木曜日) 午後13:45~17:30

◆開催場所:3K311(国際分析室)

使用言語:中国語・英語(日本語適宜通訳)

司会:辻中 豊(国際日本研究専攻 教授) 小嶋 華津子(国際公共政策専攻 講師)

第一部 中国研究への提言 (13:45~15:30)

陳 剩勇氏(浙江工商大学 教授)

「温州商会と私営企業家研究—フィールドワークを用いて」

郎 友興氏(浙江大学 教授)

「中国政治学の研究方法—村民選挙を事例として」

小嶋 華津子(国際公共政策専攻 講師)

「挑戦に直面する中国の労働組合—人民団体から利益団体への模索」

第二部 大学院生の報告 (15:30~17:30)

(1)于 洋(国際地域研究専攻 M2)

「中国における医療保障制度の実態—ハルビン市を事例に」

(2)徐 輝(国際日本研究専攻 D1)

「ソフトウェアオフショア開発企業と大学の連携関係—大連の事例を中心に」

(3)李 昶澤(国際日本研究専攻 D1)

「東アジアにおける孔子学院事業の比較研究—日本と韓国を事例として」

(4)黄 媚(現代文化・公共政策専攻 D3)

「中国業界団体の「官民二重性」への定量的考察—(C-JIGS 2000-'04)に基づき」

問合せ先: 小嶋華津子 029-853-7449